

# 私たちの手は平和をつくる手 戦争には使わない



ノーモアヒロシマ・ナガサキ

わたしたちは、平和を運ぶ風になる

ピース ウィンド  
**peace wind**

**ZENROREN 全労連青年部**

ピースウィンド実行委員会 〒113-8462 文京区湯島2-4-4 平和と労働センター 全労連会館内

TEL.03-5842-5611 FAX.03-5842-5620

ホームページ <http://www.zenroren.gr.jp>

E-mail: [youth@zenroren.gr.jp](mailto:youth@zenroren.gr.jp)

原画デザイン/JR秋葉原

2002



# 私たちは このような運動をしています。

私たち全国労働組合総連合（全労連）青年部は、「戦争に協力せず、核も基地もない平和な日本の実現」を目指して、平和の風を起す「Peace Wind」に取り組んでいます。オートバイや自転車でのリレーをしながら、自治体への要請行動、ヒロシマ・ナガサキからのアピール署名行動、学習会、被爆者の体験を聞く会、戦跡、基地視察行動など多彩に行動しています。この取り組みには、のべ1千名近い青年が参加しています。



## 核兵器のない世界のために 日本政府の責任ある行動をもとめます

20世紀最後の年（2000年）に開催された核不拡散条約再検討会議（NPT）は、核兵器国を含む参加国（187国）が一致して「核兵器廃絶を達成する明確な約束」を確認しました。いま世界中で「核保有国は合意を守って、ただちに国際協議を始めよ」という声、巻き起こっています。唯一の被爆国としての日本政府の態度が問われます。

被爆国である日本の政府は、核兵器廃絶は遠い先のことと棚上げする態度をやめて、この流れに積極的に参加すべきです。

さらに重要なことは、日本政府が「核の傘」は必要だという政策をとり続けアメリカも賛成した核不拡散条約再検討会議（NPT）の約束を踏みにじり、非核兵器保有国への先制核攻撃を含む核兵器使用政策を容認する態度を示し、世界の流れに逆らう政策を明らかにしています。

被爆国である日本の政府は、核兵器廃絶は遠い先のことと棚上げする態度をやめて、この流れに積極的に加わるべきです。

さらに重大なことは、日本政府が「核の傘」は必要だという政

策をとりつづけていることです。核兵器を積んだ米艦船や軍用機の日本への寄港を黙認するという、日米政府の秘密とりきめが存在していることも、米政府の解禁資料によって明らかになりました。

「核兵器を持たず、作らず、持ち込まさず」の非核三原則を国の方針とし、平和憲法をもつ日本が、アメリカの核戦争の足場とされる状況を、これ以上続けさせるわけにはいきません。

私たちは、核兵器の脅威から解放された日本と世界をめざし、日本政府に以下をただちに実行するよう要求します。

1、アメリカをはじめすべての核保有国政府に、「核兵器完全廃絶」の約束を実行する国際協議の開始を提唱し、実現に努力すること。

1「非核三原則」を厳格に守り、寄港・通過をふくめ核兵器の日本への持ち込みをいっさい認めないことを宣言し、アメリカに通告すること。非核三原則を法制化すること。

2002年 月 日

内閣総理大臣 殿

氏 名	住 所

 **全労連青年部**

ピースウィンド実行委員会 〒113-8462文京区湯島2-4-4  
TEL.03-5842-5611 FAX.03-5842-5620  
ホームページ：http://www.zenroren.gr.jp  
E-mail：youth@zenroren.gr.jp

取り扱い団体